

『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』

すべてにイライラした毎日を送る中学2年生の主人公がタイムスリップし、特攻隊の人たちと生活を共にする物語です。戦争について、特攻隊について、知らなかったこと知ることができます。私たちと歳の近い主人公なので、共感するところもたくさんありました。主人公や特攻隊の心情も丁寧に描かれていたので、とてもわかりやすかったです。実体験として戦争を知らない私たちが、次の世代へ戦争について伝えてゆくためには、まず私たち自身も、もっと詳しく知る必要があると思います。8月は終戦記念日のある月でした。この夏私が見つけた一冊を、みなさんもぜひ読んでみてください。

TEXT BY H.A.



『あの花が咲く丘で、
君とまた出会えたら。』
汐見夏衛 著
スタート出版



『博士の愛した数式』
小川洋子 著
新潮社

『博士の愛した数式』

この本は、今まで「知らなかった」数学のおもしろさに気づけるお話です。この本の登場人物に、交通事故にあったことで記憶が80分しかもたなくなってしまう「博士」がいます。そんな博士の唯一のコミュニケーション方法は数学を通じた会話でした。人をつなぐ友愛数、孤高の存在を示す自然数、そしてどんな数字でも嫌がらずに自分の中にかくまっている寛大なルート記号など。さまざまな数学の魅力を体験することができます。数学が苦手な人も、読み終えれば数学に対する見方が変わる一冊だと思います。

TEXT BY C.K.